【随　筆】

近年にない寒い冬ですね

住　吉　　尚
（釧路支部）

さて令和３年はどんな年になりますやら。新型コロナウイルス感染症は簡単には収まりそうにありませんね。ワクチン接種がどんなことになるかまだ見通せません。このままではオリンピックだって開くのは難しいでしょう。問題山積の令和３年が開けようとしています。でも嫌なことばかり考えていては気分も暗くなるばかりですね。昨年末のことですが、釧路バイパスを西に走っていると、湿原の中でハンノキ林をかすめるように飛ぶトビより少し小さな大型の鳥が。お腹が真っ白、おや！運転中ですから横目でちらちら見るだけです。ここは駐車もできません。鳥が旋回して背中を見せました。青みがかった灰色の背中。そして翼の先端には黒い部分が。オー！ハイイロチュウヒだー！お久しぶり、前回見たのはもう20年近く前でしょう。動物園に通っていた頃は、毎日湿原の中を走っていましたから色々な鳥に出会ったものです。でも現在では時々郊外へと車を走らせるだけですから、そう簡単に珍しい鳥に出会うことはありません。今日は何か良いことがありそうだ！と直別まで国道を行き、そこから農道を釧路方面へと走りながらタンチョウの様子を観察しようと言う予定です。直別にはヒナを連れた１家族が見られました。キナシベツを過ぎて尺別に入ると、あちこちに沢山のタンチョウが見えました。足輪番号123とか32？とか足輪を読むのは年寄りには大変です。総数が40羽に近いかなーと思いました。どうやら十勝方面から飛来し、音別の給餌場周辺で越冬するタンチョウは、まず尺別に来てしばらく過ごした後、音別へと移動するようです。音別には定番の農家にタンチョウが見られましたが、数はずいぶん少ないようです。雪がないのでまだまだ集まっては来ていないのでしょう。ところで私が観察した大まかな感じですが、この秋から冬にかけては中標津の東側や南側ではタンチョウがあちこちで見られるのに対して、奥行臼や上風連、円朱別などではさっぱりタンチョウが見られません。阿寒や仁々志別ではいつもどおりです。道東の中でもタンチョウが越冬する場所が少しずつ移動してきているかもしれませんね。

ところで最近の研究から、道北で繁殖しているタンチョウはどうやら大陸由来の鳥で、道東の個体群とは違った遺伝子を持っているとか。そして私が思った通りに、この道東にも少しだけですが大陸由来の遺伝子を持つ個体がいるようです。クロヅルが現れた、とかナベヅルを見た、とか言うニュースを聞くことがありますが、タンチョウがタンチョウの群れに混ざっても判りませんよね。時々ごく少数ですが大陸からタンチョウが飛来して道東生まれとつがいになり、少しずつですが遺伝子が混ざって行く。これが道東のタンチョウが健全な繁殖群として維持される重要な契機になることと私は思っています。

131の足輪が見えます

年末にやっと少しばかりの雪が降り、釧路も積雪状態になりました。でもほんの数cmです。年末年始は大雪だの交通障害だのと恐ろしい予報が出ていて、実際日本海側ではかなりの大雪だったとか。でもここ道東では晴天続きの穏やかな天候でしたね。ただこの冬は大変寒く、１月３日の我が家の野外温度計は－18℃を越えていました。大変寒いので地面はカチカチ、おまけに雪がありません。こんな時は普段あまり行かれないような場所でも車が埋まることもなく入って行けるものです。この時期に走古丹の砂州の先端まで行ったことがありませんでしたが、恐る恐る行ってみました。道路はなんということもありませんでした。先端近くで遠く湖の凍っていないところの氷の縁に10羽ほどのオオハクチョウと黒い鳥が多数見えました。双眼鏡で確認すると黒い鳥は全てコクガンで総数は100羽近くも見えました。コクガンがこんな格好で越冬するのを見るのは私には初めて見ることなので、「やったぜ！」来た甲斐があったと言うものです。このコクガンは他のガン類とは少し違って、牧草のような地上の草より海の中に生えている海藻類への依存度が高いようです。このため他のガン類のように牧草地で見

港で見たホオジロガモ

トウネン

ハクチョウとコクガン

ることはほとんどありません。風蓮湖や野付半島で多くのコクガンが見られますが、ここではアマモと言う海藻が主な餌です。津軽海峡などでは岩ノリのような海藻も食べていると聞いたことがあります。アマモは海の中に生えている数少ない顕花植物（花が咲く植物）で、ほかの海藻類は胞子で繁殖する植物です。根に近い部分を噛むと甘いのでアマモと言うのだそうですが、私が持っている牧野富太郎が書いた昭和15年発行の植物図鑑には、この植物の名をリュウグウノオトヒメノモトユイノキレハズシ（竜宮の乙姫の元結の切れ外し）と言う、日本産植物では最も長い名前が書いてあります。これではあまりにも名前が長いので、当時は俗称と書いてあったアマモを使用することにしたのでしょう。さてこの砂州の湖の反対側と言いますか外洋側ですが、こちらにはちらりとしか見えなかったので定かではありませんが、クロガモが数羽、そして波打ち際の海藻の山にはトウネンと言う小さなシギの仲間が10羽ほど餌を探しているのが見えました。今回はこのトウネンの写真を載せてみましたが、トウネンの足元に写っているのがアマモです。この時期にこの砂州に入ってくる人は皆バードウォッチヤーで、私が行った日には合計で７台の車に出会いました。砂州に入ってすぐには３羽のチュウヒが飛んでいるのが見え、帰りにも１羽のチュウヒに出会いました。そして、本別海からの道路脇にあまりシカが見られないのもこの冬の特徴でしょう。天気予報では１月７～８日には雪が降ると言っていますから、この砂州も簡単には入れなくなるのでしょう。

私のこの冬の行動で特筆すべきは、こんなに寒い冬なのに年末には氷上の釣りに行かなかったことです。行かなかったのには特別な事情があった訳ではありません。と言うことで、慌ててと言う訳でもありませんが、１月４日に今冬初のワカサギ釣りに出かけました。場所は厚岸。前日にはあれこれと準備をしたり、装備の点検をしたり。そしてサァー！出発です。予定出発時間は８時半、でも妻がなかなか出てきません。それでも10分遅れで車は動きだしました。母ちゃんを乗せての釣行ですからこのぐらいの遅れは良い方ですね。道路は住宅街を過ぎると乾燥路面で問題はありません。さて釣り場に到着しました。道路脇の空き地に車を止め、完全武装してそりを下ろし、引いていきます。雪がないのでそりは滑りません。それでも何とかヨシ原を越え凍った川に到着。今度は雪がない氷の上ですからそりが良く滑ります。こうして私の今日のポイントに到着。隣で釣りをしている人に「ここに穴をあけるが良いかね？」と声をかけ、ドリルを袋から出していると「穴開けてやるよ！」と。電動のドリルでアッと言う間に穴が！今年は一息つく前に３個の穴があけられるだろうか？と思っていたのに拍子抜けです。後はテントを穴の上に広げるだけです。ここ釧路の冬は晴天続きです。テントさえ張れば日差しだけでテントの中は暖かくなりますから手袋も上着も脱ぎ、

沢山の釣り人が

サァー釣り開始です。最初は底を釣るのがセオリーです。ここは川ですから流れがあります。撒餌は流れてしまうので沢山撒いても効果はありません。ほんの少しづつ、何時も流すのが私流です。もちろん２ｍ以上ある水の底を釣っているので撒餌の効果はありません。でも時間がたつと氷のすぐ下に魚が見えるようになることが多いのです。こうなったら氷の直下で釣ることになり、効率の良い釣りになります。母ちゃんは「針が多いとトラブルになりやすいので５本バリが良い！」と言うので５本バリの仕掛けを渡し、私は針の基に蛍光色のポッチが付いた仕掛けを。するとぽつぽつ釣れだしましたが、母ちゃんの仕掛けにはさっぱりあたりがないようです。仕掛けを私と交換して見るとやはり赤針だけの仕掛けはあまりあたりがありません。今度は細い黒針の仕掛けを出してみましたが、最初の仕掛けがやはり良いようでした。でもこの仕掛けはひとつしか持ってきませんでした。それでも12時半まで釣って私が100匹弱、母ちゃんは私の半分ほど。釣りは沢山釣れるほど面白いと思うでしょうが、入れ食いだとただの作業になってしまいあまり面白くないものです。今日のようにどうすればうまく魚をだまして針掛かりさせられるか、あれこれ工夫しながらの釣りが最高です。今日は氷の下に魚が見えるようにはなりましたが、最後まで底の釣りが針掛かり良く、氷の直下はトンギョに邪魔されるので良くはなりませんでした。ただ氷の直下に見えるワカサギは私が水の中で糸が揺れるのを見るための目印に使っている蛍光グリーンの目印糸を突いていますから、蛍光色のポッチが針の基についている仕掛けが良かったのでしょう。私がテントを張るのは寒さ対策ですがもうひとつ理由があります。これはテントの中だと氷の下の水の中が見えるのです。もちろん偏光メガネは必須です。こうして常に水の中を見て道糸が微妙に揺れるのを見逃さないことです。偏光メガネは必須だと言いましたが、私にはもうひとつ老眼鏡も必須です。どうしても視力が衰えていきますから、私は針は2.5号か３号しか使いません。そして最近の細い針も苦手です。普通は３号赤針か金針です。ただワカサギ釣りになぜかチカ釣りの仕掛けは良くありません。チカ釣りをしているとワカサギのような小さなチカが釣れてくることが良くありますが、チカ針をワカサギ釣りに代用しようとしても、私の経験から言うと全くと言うほど釣れないものです。面倒でもワカサギ用と書いてある仕掛けを用意しましょう。テントの中で氷に開いた穴の中を見ながらの釣りですから長い竿はダメ。最近は見ませんがカーボンの竿もダメです。仕掛けが氷に引っかかったらすぐに折れてしまいますから。そしてＰラインもライントラブルが多くダメ、ナイロンやフロロなどの糸さばけが良い糸を選びましょう。私には蛍光色の目立つラインが一番です。ダム湖などの水深があるところでは全く違った対応が必要なのでしょうが、ここ道東の潟湖や川での氷上釣りは深くても３ｍで、時には50 cmほどしかない時もありますから電動は不必要です。電動は置き竿にすることが多く、かかったワカサギをアメマスが食べ、竿ごと持って行かれるのを見たことがありますからご注意を。そして竿は１本だけ、手で持って水の中の糸の揺れで即合わせができるようにするのが一番です。などとどうでも良いことをくどくどと書きましたが、ワカサギはだれでも釣れる小魚ですが、釣りを始めるとなかなか奥が深く面白いものです。この日は２時間半釣って私が98匹、母ちゃんがその半分ぐらいでしょうか。さて釣り場をきれいにしてテントをたたみ釣りは終了です。帰りにはコンキリエで昼食を食べ満足な一日でした。

［五七五］

クラスター冷たいピザとモツ五本
丑年の明けて目の玉白黒する

［七言絶句］

前途　　排熱
再緊急事態宣言　　蟄居手料理関心
通勤乗客数不変　　香辛料購入珍品
買物必要歩街中　　激辛英訳非常熱
東京砂漠崩寸前　　排便溶岩流原因

（札幌市　頑黒和尚）